

平成20年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第1回勉強会の開催結果概要

1. 日時 平成20年6月25日(水) 18時00分～20時00分
2. 場所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 24名(委員9名、一般2名、県1名、関係者6名、事務局6名)
4. 座長 遠藤茂勝委員
5. 次第
 - 1) 護岸の緑化について
 - 2) 検証基準値について
 - 3) 現地見学会の概要(石積みに関する意見交換)
 - 4) その他

6. 概要

1) 護岸の緑化について

資料1-1, 1-2により事務局から説明

- ・法面の緑化に関し、植物繊維製袋を用いた基盤づくりについて説明。
- ・ふなばし三番瀬海浜公園において実施した植生の調査概要について説明。

主な意見

- ・米・穀物袋の耐久性はどうか。また、サイズにバリエーションはあるか。

事務局回答

耐久性は確認していない。サイズにバリエーションはある。

- ・間隙の大きさが異なるので、さまざまな大きさの袋を用意した方がよい。
- ・麻袋は丈夫だが、虫に食われる。ただし、海なので大丈夫だろう。丈夫なだけでいいのなら、麻袋でなくてもよい。
- ・麻袋は大きさの加工が容易でないので、考えた方がよい。
- ・護岸はだんだん目詰まりしていくのか。自然に詰まって緑化された方がよい。
- ・袋が落ちないように工夫が必要である。

事務局回答

大きい穴には大きい袋を使用する。

穴の下の部分を間詰めし、基盤をつくる。

などを考えている。

- ・持続性をよく考えて植物の種を選定した方がよい。植物の特徴について教えてほしい。

事務局回答

イワダレソウは多年草である。それ以外の多くは一年草である。

- ・どのようなものを優先して移植するのか。

事務局回答

乾燥に強いものを優先する。

- ・広範囲での試験の方法も考えた方がよい。

座長まとめ

法面については、袋を用いた方法により行うことで準備を進めることとする。

2) 検証基準値について

資料2により事務局から説明

- ・2工区側においては、目標達成基準を検証するための基準値をまだ決めていないため、施工前に設定が必要である。

1工区と2工区側とでは底質が異なるため、底質(粒度)に関する検証基準を新たに設定する必要がある。

主な意見

- ・測線L-2の100m地点では、平成17年度から平成20年度の期間で、泥分が小さくなり礫分が大きくなっている。礫分が大きくなるのはかなり問題があるのではないかと。また、底質の変化が進行していると読み取れる。変動幅で判定するのは、疑問である。一方、測線L-2の20m地点は、パッチ状な分布となっている。ちょっと場所が変わると底質も変わってしまうので調査方法に配慮した方がよい。
- ・平成20年4月以降の調査も見てみて、変動幅を修正した方がよい。特異な現象も起きているのではないかと。
- ・距離22~30mと距離90~100mとでは、傾向が異なるので、別々に変動幅を設定してはどうか。
- ・検証基準値はいつまでに決めればいいのか。

事務局回答

完成断面を施工するまでに決める必要がある。

座長まとめ

もう少しデータを蓄積したうえで決めた方がよい。

事務局

今のデータだけで決めず、もう少しデータを蓄積し検討する。

- ・いずれは、沿岸方向の変化について、検証していくべきである。
- ・面的に捉えることも必要である。測線を増やす必要がある。努力してほしい。

- ・潮間帯生物の全てを評価するべきではないか。施工前の状態と比較した検証基準が必要ではないか。

事務局回答

潮間帯生物については、全て調査している。施工前の状態は、マガキを主体とした潮間帯生物群であったので、評価の指標としてマガキを採用している。

3) 現地見学会の概要(石積みに関する意見交換)

資料3により事務局から説明

主な意見

- ・特になし。

4) その他

- ・次回護岸検討委員会を7月23日(水)に開催予定。